

IASB の動向 (2020 年 8 月～2020 年 10 月)

ASBJ 専門研究員 **みつの 光野** **そういちろう 聡一郎**

I. 公開草案等の公表

1. IFRS 財団がデュー・プロセス・ハンドブックの改訂版を公表 (2020 年 8 月 21 日)

IFRS 財団の評議員会は、国際会計基準審議会 (IASB) 及び IFRS 解釈指針委員会 (IFRS-IC) が従う手続上の要求事項を示す「デュー・プロセス・ハンドブック」(「ハンドブック」)の改訂版を公表した。改訂は評議員会の下に置かれているデュー・プロセス監督委員会 (DPOC) によるレビューを経ており、「ハンドブック」は目的に合った状態を維持し、引き続き良好な実務を反映したものとなっている。このレビューには、修正案についての 2019 年の公開協議も含まれていた。

DPOC は、「ハンドブック」に示されたデュー・プロセスへの IASB 及び IFRS-IC の準拠状況を監督している。デュー・プロセスは、透明性、十分に公正な協議、説明責任の 3 つの原則に基づいている。

主要な変更点は次のとおりである。

- IFRS-IC が公表するアジェンダ決定の拠り所及び IFRS 基準の一貫した適用を支援する上でアジェンダ決定が果たす役割を明確化し、アジェンダ決定の最終化に IASB を正式に関与させることにより、関連するデュー・

プロセスを強化する。

- IASB の影響分析プロセス (新 IFRS 基準又は修正 IFRS 基準から生じる可能性の高い影響の評価) における最近の進展を反映することで、基準設定における影響分析の役割を強調し、影響分析プロセスが基準設定のすべての段階で行われることを明確にする。

さらに、これらの修正により、IASB の作業計画への主要プロジェクトの追加に関する協議の要求事項の精緻化及び合理化、IFRS 財団が作成する教育用資料について要求される最低限の手続の更新及び拡充、IFRS タクソノミのデュー・プロセスの監督における DPOC の役割の明確化を行っている。

DPOC のアラン・ベラー委員長は、「『デュー・プロセス・ハンドブック』の改訂版は、我々のデュー・プロセスが、IASB 及び IFRS-IC の作業結果に対する利害関係者の信認をさらに高める最善の実務を反映するようにするものである。」と述べた。

なお、IFRS 諮問会議に関する「ハンドブック」の修正を反映するため、評議員会は、これに対応する狭い範囲の修正を IFRS 財団の「定款」に行っている。

2. IASB が IFRS 基準の修正により IBOR 改革への対応を完了 (2020 年 8 月 27 日)

IASB は、複数の IFRS 基準の修正の公表により、これまで継続していた銀行間金利 (IBOR) 及び他の金利指標の改革への対応を完了させた。これらの修正は、金利指標改革が財務諸表に与える影響に関して、企業が投資家に有用な情報を提供するのに役立つことを目的としている。

これらの修正は 2019 年に公表した修正を補完するものであり、金利指標改革を受けて、企業が古い金利指標を代替的な指標金利に置き換える際の財務諸表への影響に焦点を当てている。

この最終フェーズにおける修正は、以下に関連するものである。

- 契約上のキャッシュ・フローの変更—企業は金利指標改革によって要求される変更について金融商品の認識の中止や帳簿価額の修正を行う必要はないが、代替的な指標金利への変更を反映するように実効金利を見直す。
- ヘッジ会計—企業は、ヘッジがヘッジ会計の他の要件を満たしている場合には、金利指標改革によって要求される変更を行ったという理由だけでヘッジ会計を中止する必要はない。
- 開示—企業は、改革から生じた新たなリスク及び代替的な指標金利への移行をどのように管理するののかに関する情報を開示する。

IASB のハンス・フーガーホースト議長は、「IBOR 改革への我々の対応は、企業が財務諸表に対する影響を扱うのに役立ち、企業が投資者に引き続き有用な情報を提供することを可能にする。」と述べた。

これらの修正は 2021 年 1 月 1 日以後開始する事業年度に適用され、早期適用が認められる。

3. IFRS 財団の評議員会が、サステナビリティ報告に対する国際的アプローチ及び IFRS 財団の考えられる役割について公開協議 (2020 年 9 月 30 日)

IFRS 財団の評議員会は、国際的なサステナビリティ基準に対する需要を評価し、その需要が強い場合には、IFRS 財団がそうした基準の開発に貢献し得るか否か、及びどのような形で貢献し得るのかを評価するために、協議ペーパーを公表した。コメント期限は 2020 年 12 月 31 日である。

環境・社会・ガバナンス (ESG) に関する事項への注目が高まり、サステナビリティ報告の進展及び報告の標準化を求める要望が高まる中、評議員会は、国際的なサステナビリティ基準の必要性について利害関係者のインプットを求め、サステナビリティ報告の基準開発において IFRS 財団が役割を果たすことに対する支持を見極めようとしている。

協議ペーパーでは、IFRS 財団の現在の使命である財務報告基準の開発を超えることによって拡大させ、国際的な基準開発における経験、十分に確立され支持されている基準設定プロセス及びガバナンス構造を利用することにより、IFRS 財団が国際的なサステナビリティ基準の開発に貢献できる可能性がある複数の方法が示されている。

協議ペーパーでは、選択肢の 1 つとして、新たにサステナビリティ基準審議会 (新審議会) を設置することが挙げられている。新審議会は、IASB とともに同じ 3 層のガバナンス構造の下で運営され、既存の進展を基礎にして、サステナビリティにおける他の機関及び取組みと協力し、最初は気候に関連した事項に焦点を当てることが考えられる。

IFRS 財団の評議員会のエルッキ・リーカネン議長は、「サステナビリティ及び気候変動の問題についての報告の標準化と比較可能性を求

める要望は、これらの事項が資本市場に対してますます重要となるにつれて、高まり続けている。したがって、我々は、国際的なサステナビリティ基準に対する需要があるのかどうか及びIFRS財団がそうした基準の開発において役割を果たすべきかどうかを評価しようとしている。」と述べた。

協議ペーパーでは、新審議会の設置のために不可欠な成功要因が示されており、それには、公的機関及び市場参加者からの十分な支持の獲得、サステナビリティ報告における国際的な一貫性の達成と複雑性の低減を目的とした地域的な取組みとの協力、適切な水準の資金調達達成、IFRS財団の現在の使命が損なわれないことの確保が含まれている。

評議員会は、IFRS財団の戦略について5年ごとに協議を行うことが求められており、小人数のタスクフォースの作業に基づき作成されたこの協議ペーパーは、将来の戦略についての現在の評価に織り込まれることになる。IFRS財団の使命に関する変更は、追加の公開協議の対象となる。

II. その他のIFRS財団関連のプレスリリース

IFRS財団の評議員会がIFRS解釈指針委員会の新しいメンバーを任命(2020年8月10日)

IASBのガバナンス及び監督を担うIFRS財団の評議員会は、Renata Bandeira氏、Sophie Massol氏、Jon Nelson氏、Donné Sephton氏の4名をIFRS解釈指針委員会のメンバーに任命した。4名とも2020年7月1日から3年間の任期となる。

Renata Bandeira氏は、ブラジルGOL Linhas Aéreas Inteligentesの財務・税務ディレクターであり、Deloitteにおける10年以上の監査人の経験を含め、20年の会計分野の経

験を有する。これまで多くの企業に対してIFRS基準の適用に関する助言を行っている。

Sophie Massol氏は、フランスAXAのグループ会計政策の部門長であり、IFRS基準の適用に関し責任を負っている。IASBのIFRS第17号「保険契約」の移行リソース・グループのメンバーであり、欧州財務報告諮問グループ(EFRAG)の保険会計のワーキング・グループのメンバーである。

Jon Nelson氏は、米国Fiat Chrysler Automobilesの副社長兼経理・財務責任者であり、以前はPwCのパートナーとして米国資本市場及びAccounting Advisory Services Automotive Practiceの責任者であった。キャリアの初期には、IFRS財団の実務フェローとして公正価値測定プロジェクトを率いていた。

Donné Sephton氏は、南アフリカFirstRandの投資顧問部門長であり、その専門性を18年以上にわたりIFRS基準に生かしてきた。また、南アフリカ勅許会計士協会(SAICA)の銀行業プロジェクト・グループのメンバーも務めている。

III. IASB会議、IFRS解釈指針委員会会議

IASBの会議は、テレビ会議により2020年9月22日及び23日並びに10月27日から29日に開催された。

また、IFRS解釈指針委員会の会議は、2020年9月15日にテレビ会議により開催された(詳細については、本誌112頁の「2020年9月のIFRS-IC会議における議論の状況」及び本誌115頁の「IFRS-IC会議(2020年9月)出席報告」を参照いただきたい)。

IV. その他の IASB 関連会議

- 2020年10月2日 会計基準アドバイザー・フォーラム (ASAF) 会議 (テレビ会議) (詳細については、本誌 91 頁の「2020年10月開催 ASAF 会議報告」を参照いただきたい。)
- 2020年10月8日 IASB の代表者と資本市場諮問委員会 (CMAC) 及び世界作成者フォーラム (GPF) との合同会議 (テレビ会議) (詳細については、本誌 118 頁の「CMAC-GPF 合同会議 (2020年10月) 出席報告」を参照いただきたい。)
- 2020年10月13日から15日 IFRS 財団の評議員会の会議 (デュー・プロセス監督委員会 (DPOC) 会議を含む。) (テレビ会議)